大天守穴蔵の安全対策について

資料2①

大天守穴蔵部(一般部)の検討結果報告

事務局の方針

【共通】
・安全対策の高さは、石垣天端以上とする。
・基礎梁よりも高い位置に石垣崩壊時の荷重を作用させない。

【区画Ⅰ】
・来場者が石垣に近づかない範囲は、塑性変形(大変形)を許容する。
・変形後、部材が建屋に接触しない。

【区画Ⅱ】
・来場者が石垣に近づく範囲は、弾性変形(小変形)に留める。
・石垣と安全対策の離隔を20cmとする。

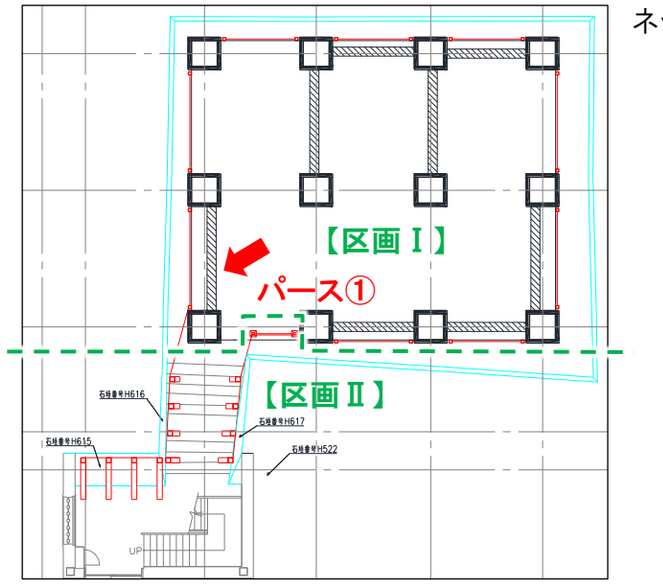
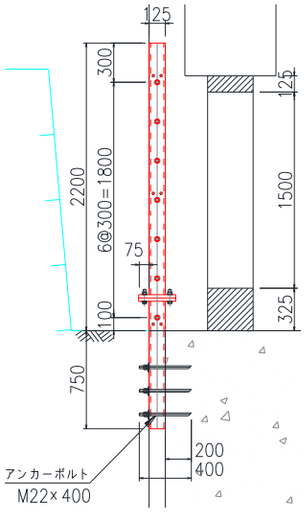


図-1 平面図①

6/4構造WG時点



図-2 イメージパース①(6/4時点)

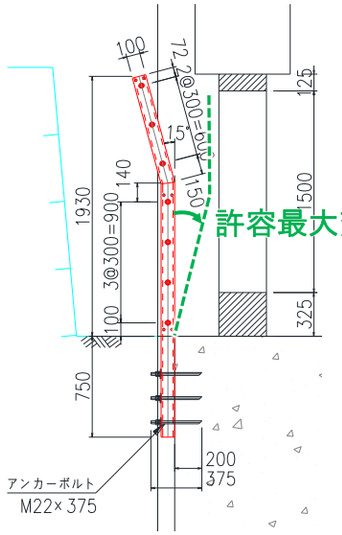


・柱の塑性変形(小)とワイヤーの変形で落石エネルギーを吸収

再検討結果



図-3 イメージパース①(再検討後)



・柱の塑性変形(大)で落石エネルギーを吸収

・変形後にダンパー等に衝突しない形状とする

図-4 断面図(6/4時点)

図-5 断面図(再検討後)

大天守穴蔵の安全対策について

資料2②

階段部・附櫓部の検討結果報告

事務局の方針

・意匠を考慮し、丸鋼(φ140)を採用し、色を白色とする

・柱間隔の縮小による断面縮小
⇒通路幅の拡大、高強度金網のスリム化

・切梁、頭つなぎを排除

・石垣と安全対策の離隔を20cmとする。

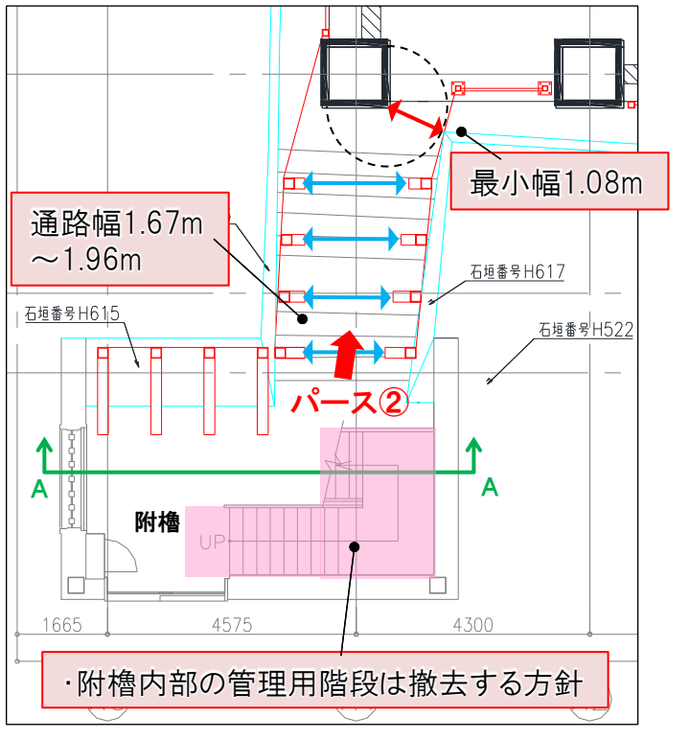


図-6 平面図②
(階段部・附櫓部拡大)

6/4構造WG時点

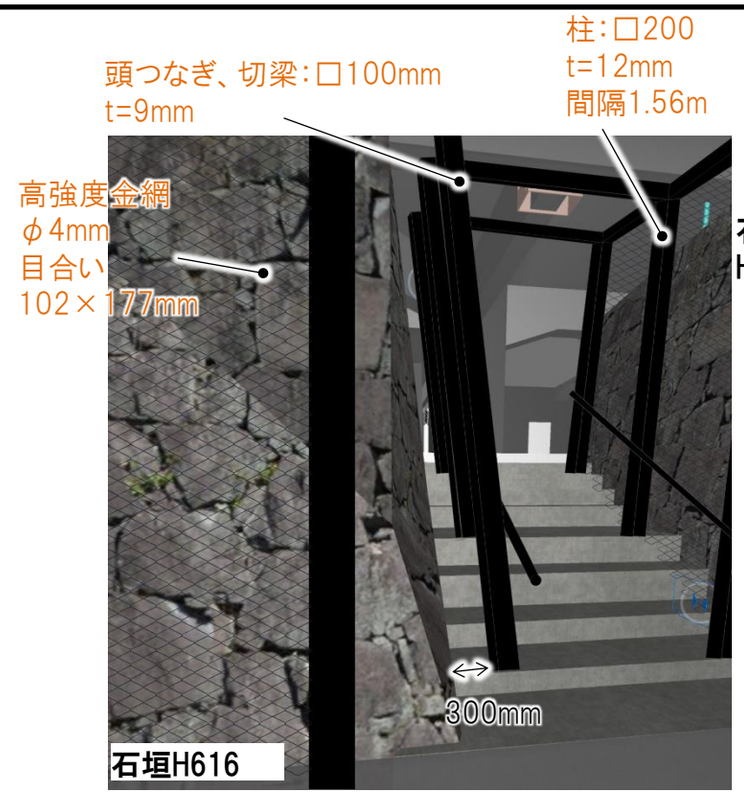


図-7 イメージパース②(6/4時点)

再検討結果

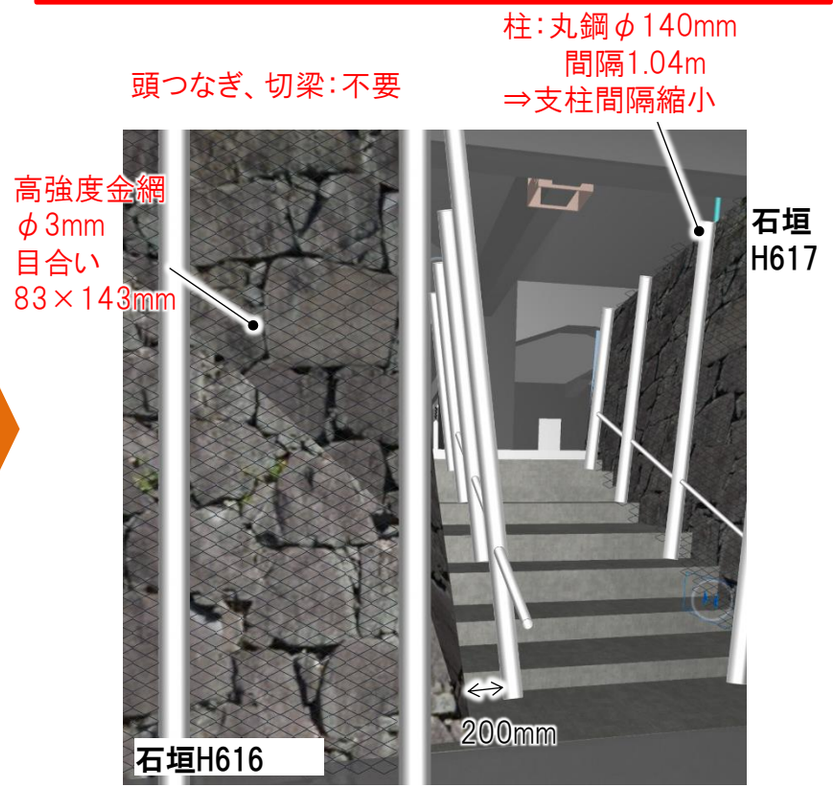


図-8 イメージパース②(再検討後)

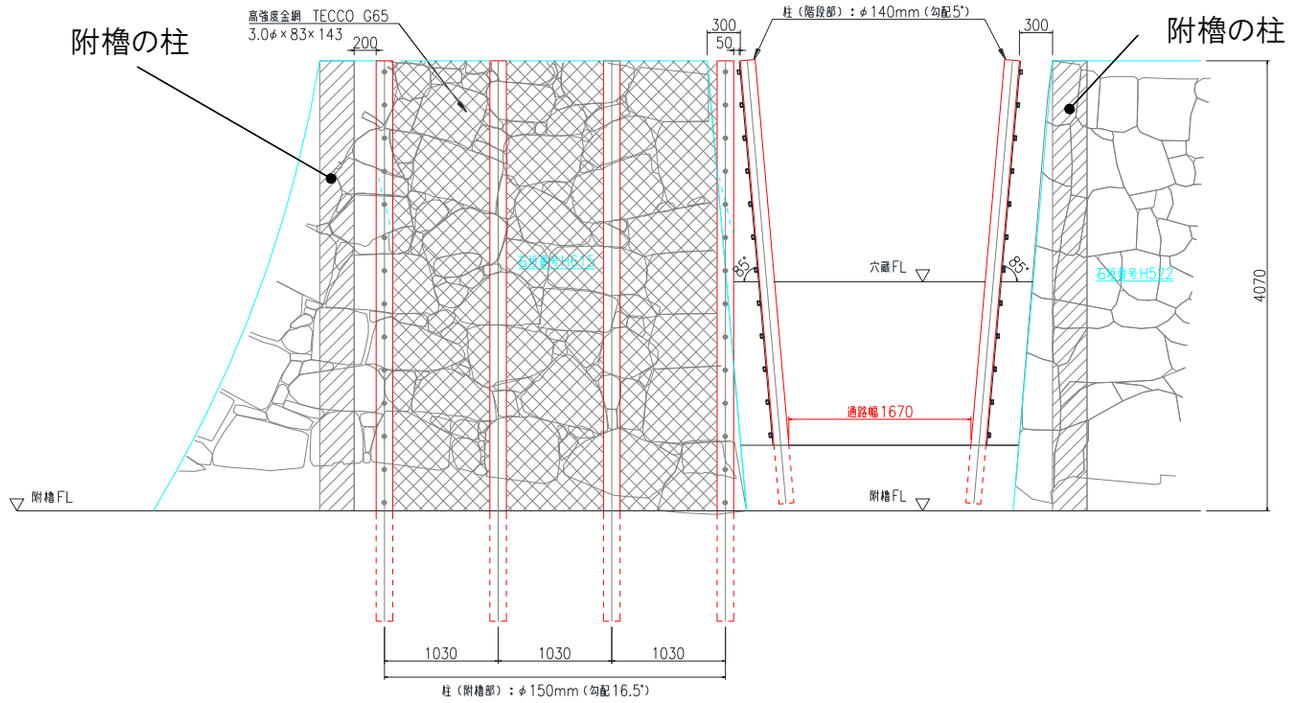


図-9 階段部 A-A断面図(再検討後)